

第二章



「5年間を振り返って」、そしてこれから…

この章では、ぴいちゃんたらぼ君の勉強ぶりを見ていた二人の区民の方が「区の財政状況」をさらに詳しく調べていきますよ。

あの子たち、小さいのに
よく勉強しているねえ…



私たちも負けてい
られないわね。



あの子たちが勉強したことを
もう少し詳しく調べてみま
しょうよ。


それに、今までとこれからの
ことも調べてみましょう。




つぎのページからは、おふたりが
まとめたレポートを、コメントを
まじえてご紹介します。

この5年間（平成15年度～19年度）で、
区の財政状況はどのように変ってきたの？
まずは、全体的な様子を見てみましょう。




支出（歳出）は 

- ① 支出の総額は、
1,833億円⇒2,060億円 **年々、増加**
- ② 義務的経費（人件費・扶助費・公債費）は、
1,035億円⇒1,094億円 **なかなか減らない**


収入（歳入）は 

- ① 特別区税・特別区交付金は、
1,169億円⇒1,454億円 **景気の回復に支えられ、増加**
- ② 国庫支出金は、
247億円⇒249億円 **三位一体改革により減少**
まちづくり交付金により増加

貯金（基金）や借金（区債）の残高は 

- ① 基金は、223億円⇒612億円 **増加**
- ② 区債は、1,093億円⇒806億円 **減少**

プラスの効果

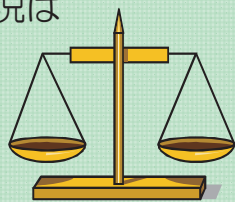
新行政改革プラン（平成16年度～18年度）の取り組みによる
財政効果は3年間で **約117億円** 

新行政改革プランの取り組みも
あって、全体的にはまあまあ…
のように見えるけど



今のねりま区の財政状況は

支出は増えたけど



収入も増えた

バランスがとれているように見えるけど、いつまでも続くの？

バランスが左にかたむくのか、右にかたむくのか、ひとつひとつ調べて、考えてみましょうか。



支出（歳出）は

- ① 義務的な経費（人件費・扶助費・公債費）について
- ② 区の施設の改修や改築工事の経費について

収入（歳入）は

- ③ 特別区税について
- ④ 特別区交付金について
- ⑤ まちづくり交付金（国庫補助金）について

その他に

- ⑥ 基金と区債の残高について
- ⑦ 区立施設の委託化や民営化について



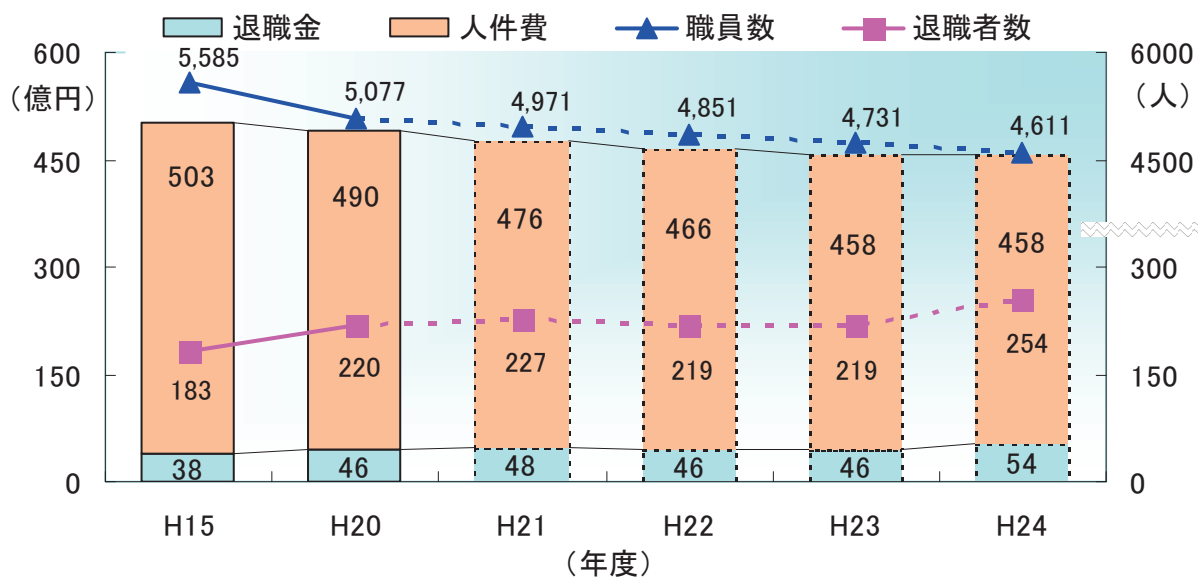
① 義務的な経費について

人件費



★ 職員数 ↪ + 退職者数 ↪ = 人件費 ↪

職員数・退職者数の見込みと人件費・退職金の推移と見込みを見てみましょう。



グラフの説明

職員数…練馬区行政改革推進プラン（平成20年度～24年度の5年間で600人の削減）をもとに、毎年120人ずつ削減するものとして見込んでいます。

退職者数…定年退職者（資料4ページ参照）とそれ以外の退職者を合せて見込んでいます。

人件費…職員の給料や退職金など人にかかるお金全体を表しています。

退職金…人件費全体に占める退職金の割合を金額で表しています。

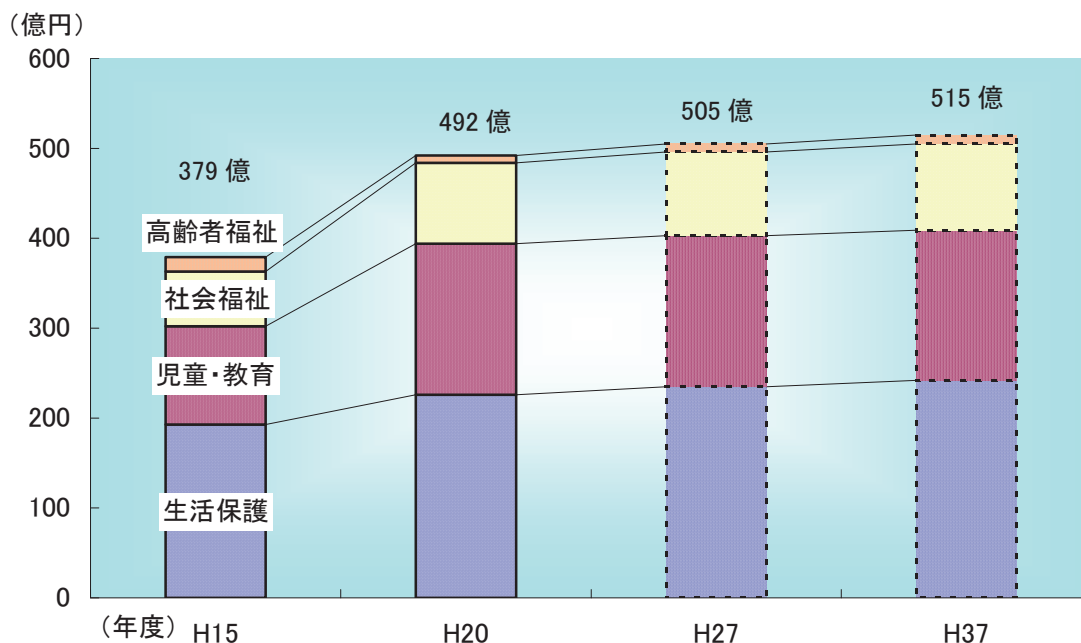
人件費は、職員が予定どおり減っていけば、退職金が増えても、何とか減りそうね…



扶助費



扶助費の推移と見込みを見てみましょう。



グラフの説明

現在の福祉サービスの内容を継続して行う前提で、それぞれつぎの人口の増減率をかけあわせて見込み額を求めてみました。

高齢者福祉…65歳以上人口の将来推計の増減率

児童・教育…15歳未満人口の将来推計の増減率

社会福祉……総人口の将来推計の増減率

生活保護……総人口の将来推計の増減率

※「社会福祉」とは、主に障害者福祉の経費です。

扶助費は、わたしたち区民に対する福祉サービスの礎だから、やはり一定のお金はかかるわね。

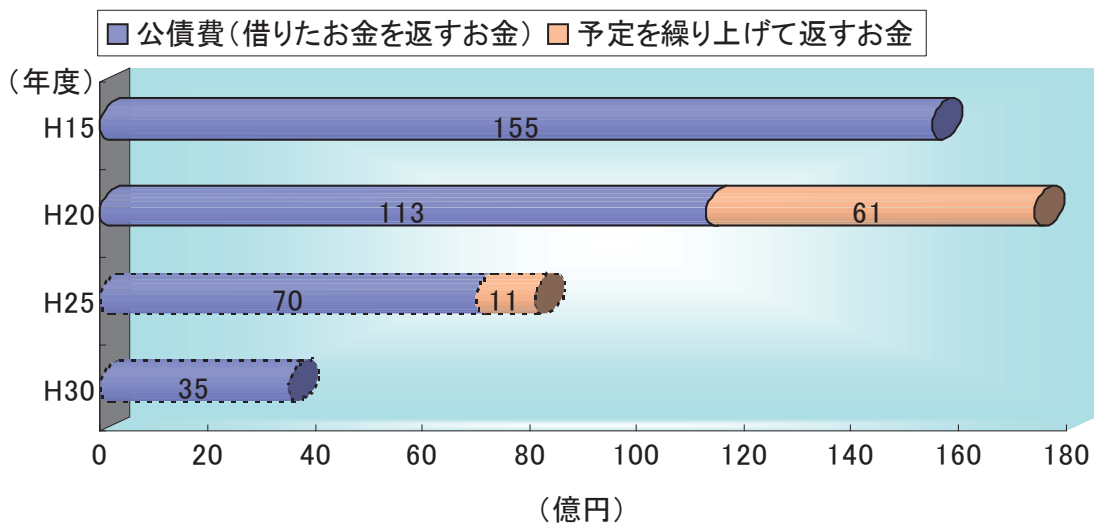
あとは、サービスの内容が大事ね……



公債費



公債費（借りたお金を返すお金）の推移と見込みを見てみましょう。



グラフの説明

新たに借りるお金として20～22年度は3年間で約120億円、23年度以降は毎年30億円と見込んでいます。

また、練馬区では、19年度から計画的に予定を繰り上げて返しているお金があります。これは『減税補てん債』と言って、国の減税政策による税金の減収分を穴埋めするために借りたお金（赤字債と言われてています）の分です。

この減税補てん債は19年度末時点では借金残高全体の3分の1を占めていましたが、27年度にはすべての返済を終える予定です。

借りたお金は着実に返しているよね。それに借金を増やさなければ毎年返すお金も少なくてすむわね。

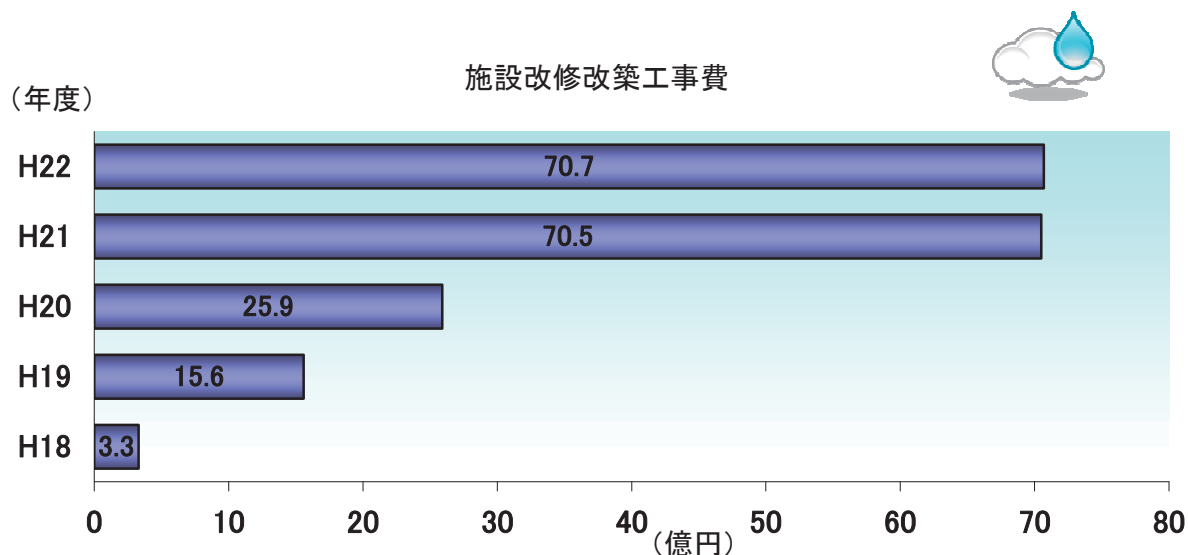


② 施設の改修や改築工事の経費について

建物を直したり、建て直すのはお金がかかることです。

そこで練馬区は、18年に『区立施設改修改築計画』を作って、計画的に施設の改修や改築の工事をしようとしているようです。

では、実際にかかっているお金を見てみましょう。



グラフの説明

18・19年度は実際にかかったお金（決算額）、20年度は予定のお金（予算額）、21・22年度は中期実施計画上の見込み額となっています。

改修改築計画では、建物の耐用年数を原則として60年とし、おおむね15年ごとに改修工事を行うことにしています。

（ただし、学校の体育館などは耐用年数を45年としています。）

区ではこうした改修改築にかかるお金に備えて、『改修改築基金』という貯金を19年度にはじめました。（現在は『施設整備基金』になっています。）

建物を維持していくのも大変ね。
私たちが使う施設だから、私たちも
大切に使わないとね…

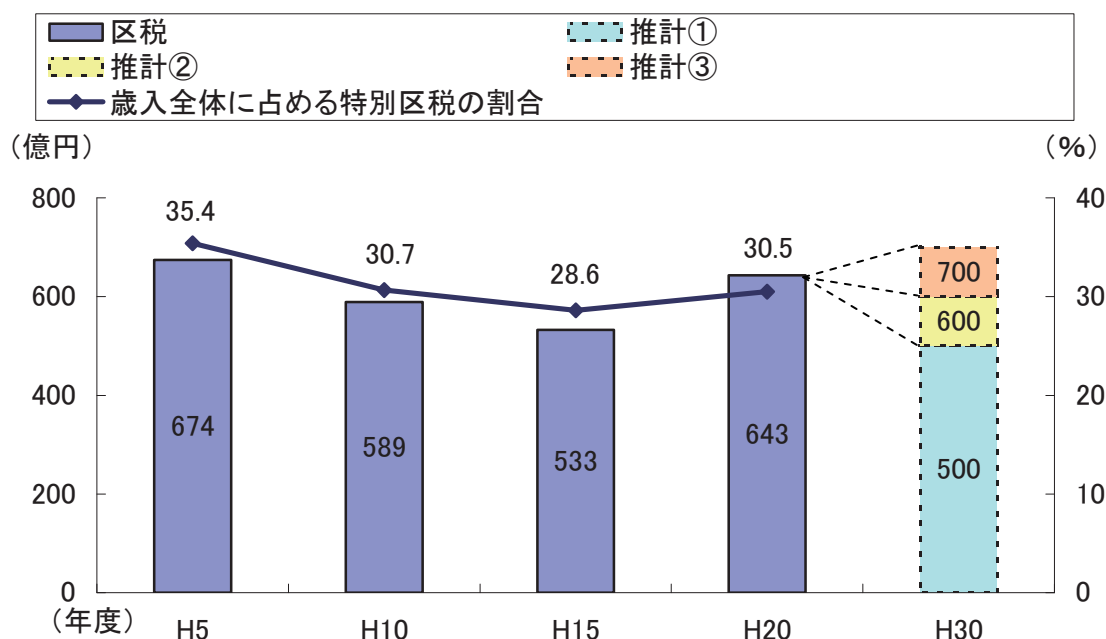


③ 特別区税について



ここからはおもな収入について見ていきましょう。
 まずは私たちが納めている特別区税です。
 特別区税は、特別区民税・特別区たばこ税・軽自動車税・入湯税の4種類ありますが、特別区民税が95%前後を占めています。

特別区税の推移と見込みを見てみましょう。



ひとくちメモ

特別区民税は所得税と連動しているのので、景気などによる所得の増減の影響を受けます。また、国が決める税制度（減税政策など）によっても増減があります。区の収入の3割近くを占める大切な収入ですが、将来の見通しはなかなかたてにくいものとなっています。

収入の多いときもあれば少ないときもあるのね。その時々で身の丈にあった支出の計画が必要ね。

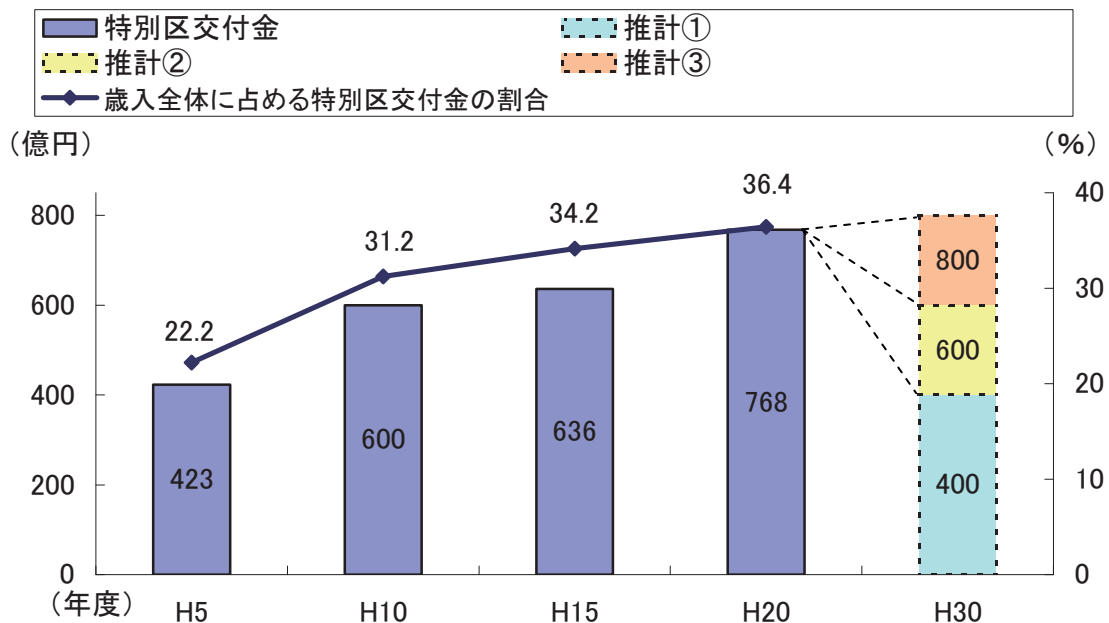


④ 特別区交付金について



特別区交付金というよりも財政調整交付金と言うほうが一般的です。特別区交付金も区の収入の3割前後を占めています。特別区交付金は、普通交付金と特別交付金の2種類ありますが、普通交付金が約98%を占めています。

特別区交付金の推移と見込みを見てみましょう。



ひとくちメモ

都区財政調整制度という決まりによって東京都から23区に交付されるお金を特別区交付金と言います。交付金のもととなる収入は固定資産税と法人住民税で大部分を占めています。法人住民税も景気の影響を受けやすい税金と言えます。(都区財政調整制度については、第三章36ページをご覧ください。)

特別区税も特別区交付金も景気の影響を受けやすいということは、不況のときは、とても大変なことね。



⑤ まちづくり交付金について



練馬区では、公園や道路の整備、区立施設の改修工事などにまちづくり交付金（国庫補助金）を活用しています。



まちづくり交付金とは・・・

【目的】

地域の歴史・文化・自然環境などの特性を活かした個性あふれるまちづくりを行うことにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・地域社会の活性化を図るための補助金です。

【対象事業】

上記の目的を達成するため、地域内の建物や公園、道路の整備だけでなく、地域における関連事業も対象となります。

【交付金を受けるためには】

交付金を受ける地域のまちづくりの目標を決めて、目標を達成するための各種事業を盛り込んだ3年～5年間の事業計画（＝都市再生整備計画）を作り、国（国土交通省）に提出します。計画が認められれば、事業のスタートです。

【交付金の額はどれくらい】

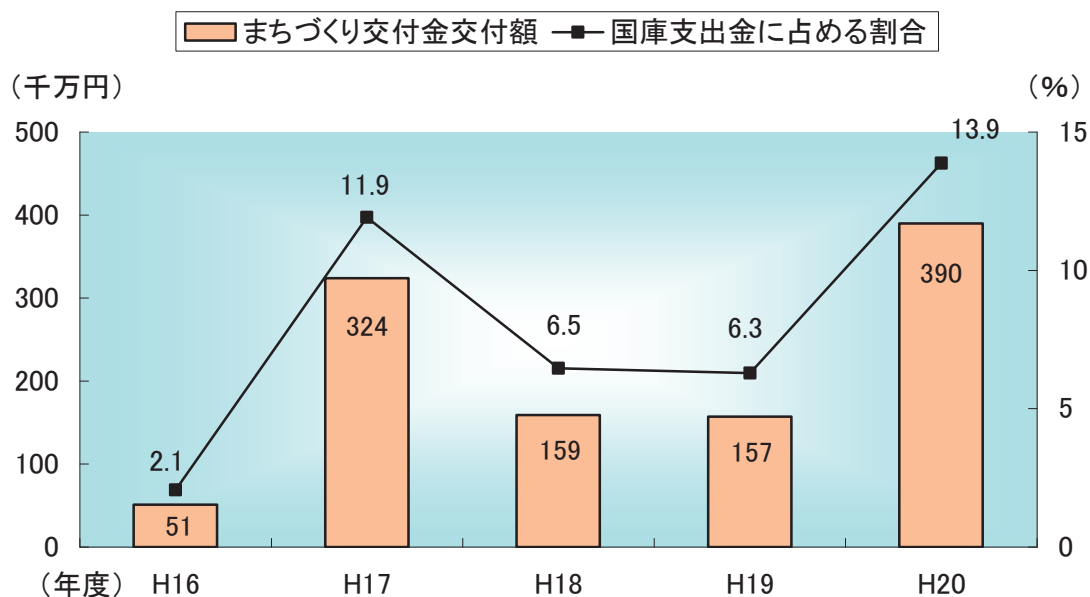
計画事業にかかる経費の約40%が国から交付されます。
交付金は毎年交付されますが、毎年必ず40%というわけではありません。実際に練馬区でも60%を超える年もあれば20%程度の年もあります。事業の計画期間全体を通じて約40%が確保されています。

練馬区のまちづくり交付金対象事業の紹介

練馬区では平成 16 年度以降、すでに 5 つの地域で事業を展開しています。

地区の名称	主な事業
練馬駅周辺地区 (平成16~20年度)	中村南スポーツ交流センター建設、練馬文化センター改修工事、 練馬駅北口道路の整備、中村中学校・学田公園雨水貯留施設設置工事
練馬高野台駅周辺地区 (平成16~18年度)	順天堂大学医学部付属練馬病院前歩道橋（いぎいぎ歩道橋）設置工事、 練馬高野台駅前自転車誘導員業務、練馬高野台駅前道路のカラー舗装等
中村橋駅周辺地区 (平成17~21年度)	中村橋駅南口広場整備、中村橋福祉ケアセンター屋上等緑化工事、 安全・安心パトロールカー活用事業、街路灯照度アップ工事
西武池袋線沿線西部地区 (平成17~21年度)	石神井公園駅周辺道路整備、石庭の森緑地整備、仮称ふるさと文化館整備 東大泉第二保育園等改修工事
練馬区西北地区 (平成19~23年度)	西大泉五丁目地区内等道路整備、仮称大泉学園町九丁目公園整備、 大泉図書館改修工事、西大泉保育園等改修工事、大泉西出張所等改修工事

まちづくり交付金の交付状況は・・・






※ 平成20年度は当初予算額です。





ひとくちメモ

着手した事業の数は、今後のものも含めて 100 以上になります。
多くの事業が、もともと区が予定していた区立施設の改修工事や公園の整備などで、まちづくり交付金がなければ、一般財源でまかなわなければならなかった事業がほとんどです。区の歳入に大きく寄与していますね。

収入と支出のまとめ

ここまで収入と支出のようすを見てきましたが・・・
この先の見通しは、

収入	特別区税 	特別区交付金 
	まちづくり 交付金 	

支出	人件費 	扶助費 
	公債費 	改修改築 工事費 

まとめ

平成 20 年度予算の収入は、特別区税・特別区交付金・まちづくり交付金の収入で約 7 割を占めています。

まちづくり交付金は、国の補助制度なので、制度が終了したり、補助金を受け取るための事業がなくなれば、交付金の収入もなくなります。

特別区税と特別区交付金は、景気などに左右されてしまい、安定的に一定の収入を得られる見込みはたちません。

支出は、約 5 割を占める義務的経費のうち、公債費（借りたお金を返すためのお金）以外はあまり減少が見込めません。

また、改修改築にかかる費用は増えそうですし、これから現在の予算規模（平成 20 年度は約 2,100 億円）が大幅に減ることは、あまり見込めなさそうです。

収入と支出のバランスが崩れたときは、収入を補うため貯金（基金）を使う方法もありますが、それよりも今まで以上に徹底して、ひとつひとつの事業の必要性を考えて支出の計画をたてないといけませんね。



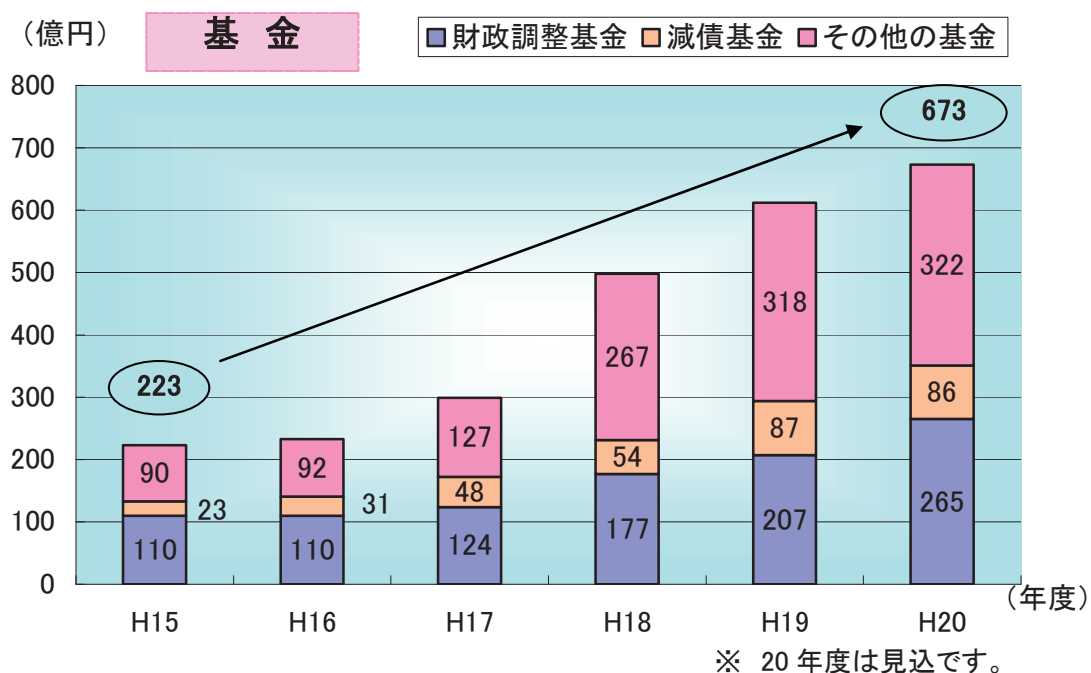
⑥ 基金と区債の残高について

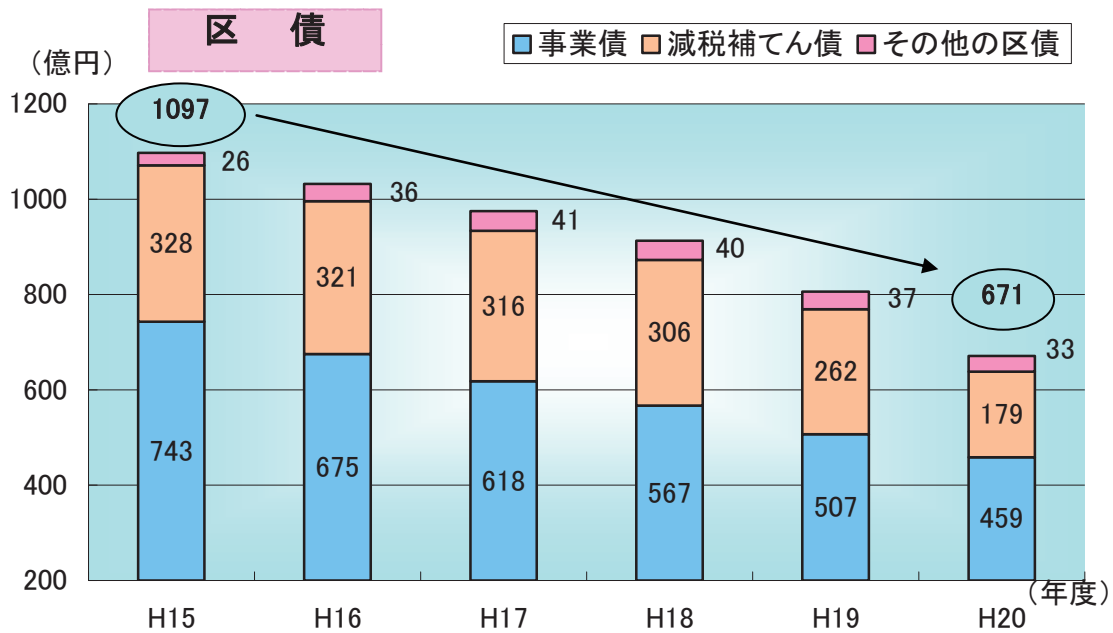
では、区の貯金（基金）と借金（区債）について見てみましょう。

基金の種類	説明
財政調整基金	年度間の収入のバランス調整に備えて積み立てています。
減債基金	計画的な借金の返済に備えて積み立てています。
その他の基金	施設の改修改築の費用に備えて積み立てている「施設整備基金」やみどりを守り増やすことを目的として積み立てている「みどりを育む基金」などがあります。

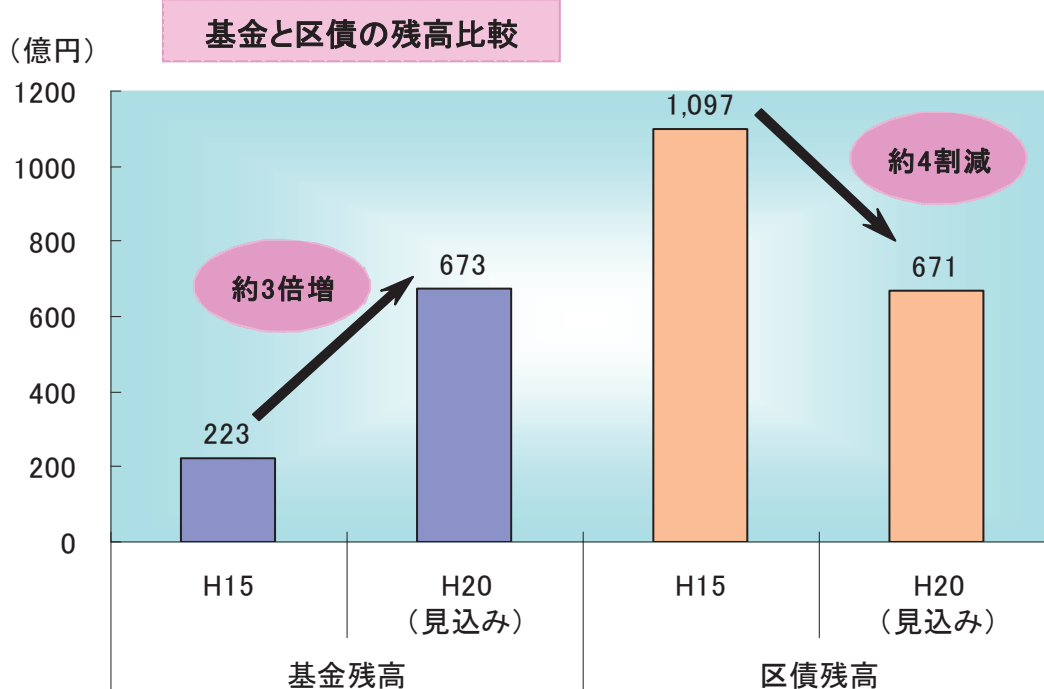
区債の種類	説明
事業債	区立施設の整備のために借り入れるお金です。
減税補てん債	国の減税政策によって生じる区の減収を補うために借り入れるお金です。
その他の区債	国や東京都の制度に基づいて借り入れている「国・都貸付債」などがあります。

それでは、基金と区債の残高の推移を見てみましょう。





※ 20年度は見込みです。



ひとくちメモ



この5年間、基金残高は景気回復による収入の増加と行政改革による支出の抑制によって練馬区では初めて500億円を超えました。

一方、区債は新たな借入れをできるだけ少なくするとともに19年度からは減税補てん債の返済を繰り上げるなどの取り組みによって約4割も削減することができました。

⑦ 区立施設の委託化や民営化について

「官から民へ」という言葉を耳にしたことがあると思います。国や地方自治体が行っていた様々な仕事を民間に委ねることによって、民間の経済活動の活性化と行政のスリム化を推進することができるというものです。

練馬区の取り組みは・・・

- 平成 16 年 3 月 委託化・民営化方針策定
- 平成 16 年 9 月 第一次区立施設委託化・民営化実施計画策定（平成 16 年度～18 年度）
- 平成 19 年 10 月 第二次区立施設委託化・民営化実施計画策定（平成 19 年度～22 年度）

第一次計画期間中に委託化した施設数は・・・

- ①指定管理者制度へ移行した施設は・・・ **137 施設**
- ②新たに業務委託を行った施設や業務委託などを拡大した施設は・・・ **25 施設**

第一次区立施設委託化・民営化実施計画の効果は・・・

- ①サービスの向上
開館日や開館時間の拡大や新規サービス、サービスの拡充などを行った施設は・・・ **145 施設**
- ②財政効果
委託化を進めることによって、人件費は減少し、委託に関する支出が増えます。
3 カ年の累積効果額は・・・ **17 億 91 百万円**



※ 平成 19 年 3 月 31 日現在で取りまとめた数値です。

「5年間を振り返って」、そしてこれから・・・（まとめ）

いろいろ調べてみたけれど、この5年間は、貯金が増やせて借金を減らせたことは良かったわね。



でも、区立施設の改修や改築にかかるお金とか、新しい課題もでてきているから、ずっとこのままというわけにはいかないわね。



去年から景気も悪くなっているし、経済状況はあまりかんばしくないわね・・・



そうね。区の収入は経済状況によって左右されてしまうからこれから厳しいわね。



これから、区はどうすればいいの？

- 1 収入を確保すること
 - ・ 区税や財政調整交付金など自由に使える一般財源を確保
 - ・ 国や東京都からの補助金などの特定財源をもらさず確保
- 2 支出を削減すること
 - ・ 借金を減らしたり、職員数を減らして義務的経費を削減
 - ・ 今の事業を良く見直してみよう！無駄な事業をやめて支出を削減
- 3 そして効率的で持続可能な財政運営を行うこと
区がやらなければならない事業はたくさん！
でも、今やらなければならないこと、少し先でも大丈夫なもの、良く見きわめて限られた収入を効果的に、そして効率的に使うことが大切！
収入と支出のバランスを保つことが持続可能な財政運営につながります。

これで私たちのレポートはおわりです
ねりまのまちがいつまでも
～豊かさゆとりのあるまち～
でありますように

前回の白書にも書かれていたけれど…

